



題字/ 故西尾邑次
元名誉会員揮毫

第 63 号

2020年9月10日発行
東京鳥取県人会事務局
〒102-0093

東京都千代田区平河町2-6-3

都道府県会館10F

電話 03(5212)9178

FAX 03(5212)9079

発行責任者/吉田政雄

編集/県人会広報部会

https://www.pref.tottori.lg.jp/tokyokenjin/

平井鳥取県知事が吉田県人会会長に語った県民を守るために実行してきた早めのコロナ対応策と第二波への備え。取材日は7月15日。そのあと県内でも感染者が徐々に増えたが、これからの知事の方針に揺るぎはないだろう。



▲平井伸治鳥取県知事

吉田 鳥取県のコロナ対策はメディアでもよく取り上げられますが、まず何から始められたのですか？

平井 1月16日に日本初の患者さんが確認されました



▲吉田政雄東京鳥取県人会会長

平井 2月に入って県医師会の理事会に「鳥取県では院内感染が起こったらいっぺんに医療崩壊になる。」

吉田 そういふ対応にはな

が、県では21日に庁内会議を開き、すぐに鳥取県新型コロナウイルス感染症対策本部を立ち上げました。

吉田 かなり早いんですね。

平井 私たちの県は高齢化が進んでいます。病院など医療資源も少ない。感染症の専門医など数えるほどしかいらっしゃいませんので、感染が始まってからでは遅いのです。

「我々はもう準備してきた」と。この患者さんの関係者全員にPCR検査を受けていただく、医療機関を挙げてこの患者さんを絶対に治すと宣言しました。この後も陽性者が出るたびに同様のローラー作戦で、感染の拡大を防いできました。

吉田 今後の備えは？

平井 第二波への備えについては、鳥取県としても独自の方策を考えています。具体的には第一波といわれるものが終わったとき、専門家による戦略的なクラスターチームを作りました。これでクラスターを追跡し、それから県内の感染状況を評価、モニタリングをします。

クラスターが発生するのは7〜8割が医療機関と福祉施設だそうです。例えば



「我々はもう準備してきた」と。この患者さんの関係者全員にPCR検査を受けていただく、医療機関を挙げてこの患者さんを絶対に治すと宣言しました。

随想リレー

代川のことを語ってました。

「山陰の山々は炭焼きが栄え林業が殆どなく」云々とあり、「ところが千代川だけは上流に智頭林業という山



長年「産経抄」を執筆されていた石井英夫さんが、ある雑誌の書評欄で『水の文化史』という本を取り上げていて、その中で山陰の3河川斐伊川・日野川・千

が分かってきました。そこですべての福祉施設や医療機関に伝えて、第二波対策をやってもらっています。

吉田 地域経済の活性化という点については、どうお考えですか？

平井 コロナの感染は、ワクチンが多くの方に引き渡って集団免疫ができるまで終わらないと思います。ですから時間がかかることを前提として、鳥取県では各業界団体と話し合っ

陰では唯一の江戸時代からの林業地帯があり水が豊かで」とありました。

私は、小学校から八頭高まで、千代川の支流の八東川とその支流の私都川沿いの4箇所

助成金制度もいろいろやっていますが、ものすごい数の事業者が利用されています。一番効果があったのは無利子融資で、1月に県の融資制度を作り、2月

に保証料を免除して3月には無利子化した。県内金融機関のご協力もいただき、いわゆるコロナ倒産が全国から見るとものすごく少ないです。

最後に県人会会員の皆さんに県の「新型コロナウイルス対策ふるさと納税」への協力をお願いいたします。医療支援などに使われ、寄付のみのコースと、県内事業者救済支援品つきのコースがありますので、どうぞお申し込みをよろしくお願いたします。

吉田 本日はお忙しい中、ありがとうございました。

取城を包囲する前に落城させた私都城があり、扇ノ山の麓にある安徳天皇の五輪塔がある私都川の源流は少年時代の格好の遊び場だったのです。

銅鐸の地名は、昨年ある講師がシモサカと呼んでいたのを思い出しますが、私

山陰の歴史と文化の中で

常任幹事 井上靖雄

リンガーハットグループは昭和37年、長崎県銀台町の「とんかつ浜かつ」の開業に始まります。その後、長崎ちゃんぽん専門店として「リンガーハット」の店舗展開を始めて、創業より56年が経ちました。今では海外へも進出し、グループ合わせて800店舗を展開しています。

株式会社リンガーハット
取締役会長 米濱和英 (鳥取市出身)

〒141-0032 東京都品川区大崎1-6-1 TOC大崎ビル14F
TEL 03-5745-8611 FAX 03-5745-8622

全国異業種協同組合連合会
協同組合情報サービス

代表理事 永井 幹 (米子市出身)

組合本部 東京都新宿区西新宿3-9-23
電話 03(3376)4783
米子事務所 鳥取県米子市上後通3-15-1
電話 0859(24)2453

株式会社 **チユウ**

代表取締役会長 大田 英二

〒103-0014 東京都中央区日本橋蛸殻町1-29-6
水天宮前東急ビル6F
TEL 03-5640-8122
FAX 03-5640-8100

TOTTORI BANK **鳥取銀行**
東京事務所

所長 佐々木 淳

〒101-0048 東京都千代田区神田司町2-2-12
神田司町ビル5階
TEL 03-5295-8111 FAX 03-5295-8117
http://www.tottoribank.co.jp/

コロナ自粛で私が感じたこと

順不同 (出身地・年齢)

● 新型コロナウイルス生活

近衛 義弘 (倉吉市・81歳)
都知事が「今後3週間がオーバースhootへの重要な分かれ道」と派手に各種自粛を要請。政府が「緊急事態宣言」を发出すると商店街は軒並みシャッターを下ろし、異常な臨時休業となりました。

フレイルや要介護度を増すことを恐れ、次のような基本日程を定めました。午前は新聞、雑誌を読む。午後はBSの映画鑑賞後、散策、夜はテレビか雑誌読み。雑誌は20〜30年ため込んだ「旅」(打吹公園の桜が咲き誇っていた頃の案内)や「鉄道ファン」(倉吉線の廃線記事)を懐かしんで読みました。散策は川沿いを歩き、カルガモの子育てを楽しんでいます。

こんな時間が持てたのは新型コロナのお蔭だと思っていますが、感染だけは避けたいと念じています。

● 田舎の圧力 一 村 久美子 (米子市・68歳)
本年はコロナのため5月に母の3回忌をやる予定が立たず、来年としました。

田舎の人たちのコロナアレルギーがものすごく、東京方面から帰ってくるという圧力をひらきました。

小生は、外出自粛で運動不足、人と出会うことが少なくなると同時に、公共施設を存分に利用し、自由時間を持つ高齢者は行き場を失いました。

都立公園は立ち入りを断り、区の動物園は休園、図書館休館、区のカルチャー教室、健康運動教室も率先して中止となりました。スーパリーのレジは物々しいガードぶりです。

● 私のコロナウイルス禍 景山 正 (境港市・85歳)
4月7日、7都道府県を対象に発出されたこの度のコロナ騒動に係る緊急事態宣言は、その後全国に拡大され、人々は、不要不急の外出を避け自宅にこもり、85歳にして一人暮らしとなった私も、この事態により可成りの影響を被ることとなった。本年4月25日(土)に、青葉台駅前のフィリアホールで上演予定だった音楽劇「十三月の童話」(加藤直 構成・演出、寺嶋直也 作曲)に出演の為、昨年4月以来、週に1〜2回のペースで猛稽古を続けていたが、愈々あと1ヶ月ばかりとなった処で、遂に延期が決定された。稽古がばったり無くなり、本来なら、生活リズムがすっかり変わり、それだけで体調に異変が起きて、も可哀しくないと、ところだが、時を同じくして、この4月から東京で就職する孫の男の子が、一人暮らしの老祖父と一緒に住んでくれることとなったのだ。3月末には無事引っ越しを終え、2日後には、自分の弟や友人を招いて、私の手になる豪華な寿司パーティーまで催し、4月からの通勤に備えた。ところが、コロナ騒動のその後の情勢変化に伴い、通勤したのは最初の2日だけ。3日目からは、テレワークによる在宅勤務となり、朝9時から、昼食を摂るだけのお昼休みを挟んで、夜8時、9時まで、iPadを前に、オリエンテーションやらテレビ会議やら、時には、テレドリンクまで。朝食だけ作ってやれば、後は自分で食べて来るだろうとの当初の見込みは大外れで、1日3食、歌を忘れた老カナリヤが、「所さん!大変ですよ」で全国放映された料理の腕を振るって、おさんどんの日々である。

「コロナ感染防止のため、本年度の「総会と懇親の集い」は中止と決定!」
幹事会は6月25日(木)初のWeb会議を開催、
「コロナ対策を検討!」

コロナの感染拡大は止まらな。世間はコロナ対応生活様式を強いられているが、県人会もまた同様。幹事会は3月16日(月)に本年度の基本方針をほぼ固めており、恒例の「総会と懇親の集い」は9月22日(火・祝)の都市センターホテルと予定されていたが、コロナ禍の状況下にあって、手早い対応を迫ら

れていた。6月25日(木)の緊急幹事会では初のWeb会議となった。東京本部には3副会長と事務方2名が待機、とつとり、おみやま新橋館の会場には6幹事と事務方1名が控え、自宅からの会議参加者は幹事19名であった。会議は18時から福井宏一郎副会長の司会進行で始まり、

3月16日に策定された事業計画が見直されて各部会のコロナ対策が示された。主な確認決定事項は次のとおり。令和2年9月22日(火・祝)の「総会と懇親の集い」は中止する。○総会は書面決議をもって行う。○3密を伴う会合は自粛。○会報「梨花」は会員間の唯一の情報源として欠かすことができないため、年2回の発刊を目指す。(文・遠藤隆司)

しと感じました。鳥取県は長期間罹患者が3人以下だったのは素晴らしい! IT・AIを活用した快適空間を

福富光彦 (元鳥取県企画部長・65歳)
コロナ禍が人々の生活やまじをどう変えるかまだ分からないですが、最先端のITやAIを活用してより安全で快適な空間をマネジメントする方向を目指

テレビ会議が日常 林田英樹 (鳥取市・78歳)
悪名高い新宿歌舞伎町から1キロ程の所に住んでいるので、「新しい生活様式」には特に気を付けています。

体維持のためには、近くの都立戸山公園で毎日1万歩を日課にウォーキングに励んでいます。また、一緒にいる時間が増えた妻から姿勢が悪くなったと指摘を受けることが多くなり、矯正にも取り組んでいます。

9月には日本橋三越本店で恒例の「日本伝統工芸展」を開催のため、流行のテレビ会議の回数が増えました。不慣れな情報機器の扱いには四苦八苦していますが、何とか世の中についていきたいと思います。

● 読書三昧 松本 薫 (米子市・63歳)
今年の3月末で定年退職。入れ替わるように4月から、コロナウイルスによる自粛生活となりました。当初は、長いサラリーマン生活から解放され、旅行・レジャーの企画をしていましたが、一転、ごもり生活になってしまいました。そこで、現役時代には「退職したら読もう」と



コロナ禍で外出を控えているため絵手紙の大切さをより一層深く感じています。これからは、生きていくために描き続けていきます。中谷俊文乃 (米子市・川崎市在住)

すことが必要となるでしょう。建物やエリア内の人々の密度を把握してコントロールする、スマートシティの機能の充実が求められます。同時に人々のプライバシーは守ること。スマホとセンサーの上手な活用は、自然災害時にきめ細かいエリア情報の提供を可能にし、中山間地域でも不可欠なインフラとなる

思います。 * * * * *

* * * * *

* * * * *

松嶋 一海 (湯梨浜町・77歳)
毎日の新型コロナウィルスの感染者数の報道で、鳥取県が頑張っているのが嬉しい。ウィルス禍には、強い意思で臨むのみ。中学、高校、県人会の集まりも本年は、無くなった。

後期高齢者になっても家族の応援で働いている。細心の注意の下、顧問先とは、「共に頑張る」という意識で、テレワークで凌いでいる。

鳥取の青谷の弥勒寺から疫病退散のお札「角大師(つのだいし)」が届き、知り合いにもお配りした。人様に迷惑かけないことを肝に銘じ、先人の思いに学び、日々、過ごしたい。

* * * * *

* * * * *

* * * * *

* * * * *

* * * * *

* * * * *

* * * * *

* * * * *

* * * * *

* * * * *

* * * * *

* * * * *

* * * * *

* * * * *

* * * * *

* * * * *

* * * * *

* * * * *

* * * * *

* * * * *

* * * * *

* * * * *

* * * * *

* * * * *

* * * * *

* * * * *

* * * * *

* * * * *

* * * * *

* * * * *



▲わが家の寿司パーティー風景、中央が景山さん

祝叙勲

本会会長の吉田政雄さん(71歳)は、去る7月31日(金)に宮中において安倍内閣総理大臣より「旭日重光章」を伝達されました。4月29日に発令されてからコロナ禍で3カ月ほど延期されていましたが、マスク着用という「新常态」での伝達式であったとのこと。ご報告と共に、心よりお祝い申し上げます。

(幹事会)